

政策評価レポート 2022

政策評価等の実施状況 報告書

令和4年11月

岩手県

- 1 本報告書は、政策等の評価に関する条例（平成 15 年岩手県条例第 60 号）第 8 条の規定に基づき、政策評価、事務事業評価、公共事業評価及び大規模事業評価の実施状況を県議会に報告し、公表するものです。
- 2 報告書の作成に当たっては、知事、教育委員会、公安委員会、警察本部長及び公営企業管理者が行った評価の実施状況を一括して取りまとめました。

※ 計数及び事業名等については、精査の結果、異同が生じる場合があります。

◇皆様のご意見をお待ちしております。

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸 10-1 岩手県政策企画部政策企画課（評価担当）

TEL 019-629-5181 FAX 019-629-6229

【 目 次 】

第1 政策評価及び事務事業評価の実施状況について

1	政策評価について	1
2	県民の幸福感の現状	3
3	政策評価結果	5
4	事務事業評価結果	6

第2 公共事業評価及び大規模事業評価の実施状況について

1	公共事業評価結果	7
2	大規模事業評価結果	11

個別調書等

1 政策評価について

(1)	「10の政策分野」・「50の政策項目」及び「具体的推進方策」の体系と評価結果	17
(2)	政策評価調書の見方	29
(3)	個別調書（政策分野）	
I	「健康・余暇」分野	35
II	「家族・子育て」分野	39
III	「教育」分野	43
IV	「居住環境・コミュニティ」分野	48
V	「安全」分野	52
VI	「仕事・収入」分野	55
VII	「歴史・文化」分野	60
VIII	「自然環境」分野	63
IX	「社会基盤」分野	67
X	「参画」分野	70
(4)	個別調書（政策項目）	

I 「健康・余暇」分野

1	生涯にわたり心身ともに健やかに生活できる環境をつくります	73
2	必要に応じた医療を受けることができる体制を充実します	78
3	介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境をつくり ます	83
4	幅広い分野の文化芸術に親しみ、生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます	91
5	生涯を通じて学び続けられる場をつくります	97

II 「家族・子育て」分野

6	安心して子どもを生み育てられる環境をつくります	102
7	地域やコミュニティにおいて、学校と家庭、住民が協働して子どもの育ちと学びを 支えます	110

8 健全で、自立した青少年を育成します	114
9 仕事と生活を両立できる環境をつくりま	118
10 動物のいのちを大切に作る社会をつくりま	122

Ⅲ 「教育」分野

11 【知育】児童生徒の確かな学力を育みます	125
12 【徳育】児童生徒の豊かな人間性と社会性を育みます	130
13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます	135
14 共に学び、共に育つ特別支援教育を進めます	140
15 いじめ問題などに適切に対応し、一人ひとりがお互いを尊重する学校をつくりま	144
16 児童生徒が安全に学ぶことができる教育環境の整備や教職員の資質の向上を進めま	148
す	
17 多様なニーズに応じた特色ある私学教育を充実します	155
18 地域に貢献する人材を育てます	159
19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます	168
20 高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりを進めます	174

Ⅳ 「居住環境・コミュニティ」分野

21 快適で豊かな暮らしを支える生活環境をつくりま	178
22 地域の暮らしを支える公共交通を守ります	182
23 つながりや活力を感じられる地域コミュニティを守り育てます	186
24 岩手で暮らす魅力を高め、移住・定住を促進します	190
25 海外の多様な文化を理解し、共に生活できる地域づくりを進めます	194
26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくりま	197

Ⅴ 「安全」分野

27 自助、共助、公助による防災体制をつくりま	201
28 事故や犯罪が少なく、安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます	205
29 食の安全・安心を確保し、地域に根ざした食育を進めます	212
30 感染症による脅威から一人ひとりの暮らしを守ります	215

Ⅵ 「仕事・収入」分野

31 ライフスタイルに応じた新しい働き方を通じて、一人ひとりの能力を発揮できる環	219
境をつくりま	
32 地域経済を支える中小企業の振興を図ります	226
33 国際競争力が高く、地域の産業・雇用に好循環をもたらすものづくり産業を盛んに	232
します	
34 地域資源を生かした魅力ある産業を盛んにします	237
35 地域経済に好循環をもたらす観光産業を盛んにします	243
36 意欲と能力のある経営体を育成し、農林水産業の振興を図ります	249
37 収益力の高い「食料・木材供給基地」をつくりま	254
38 農林水産物の付加価値を高め、販路を広げます	262

39 一人ひとりに合った暮らし方ができる農山漁村をつくります	267
Ⅶ 「歴史・文化」分野	
40 世界遺産の保存と活用を進めます	272
41 豊かな歴史や民俗芸能などの伝統文化が受け継がれる環境をつくり、交流を広げます	276
Ⅷ 「自然環境」分野	
42 多様で優れた環境を守り、次世代に引き継ぎます	280
43 循環型地域社会の形成を進めます	287
44 地球温暖化防止に向け、低炭素社会の形成を進めます	291
Ⅸ 「社会基盤」分野	
45 科学・情報技術を活用できる基盤を強化します	296
46 安全・安心を支える社会資本を整備します	301
47 産業や観光振興の基盤となる社会資本を整備します	307
48 生活を支える社会資本を良好に維持管理し、次世代に引き継ぎます	312
X 「参画」分野	
49 性別や年齢、障がいの有無にかかわらず活躍できる社会をつくります	316
50 幅広い市民活動や多様な主体による県民運動を促進します	323
(5) 総括表	
① 政策分野別総括表（いわて幸福関連指標関係）	328
② 政策項目別総括表（具体的推進方策指標関係）	340
(6) 関連資料	
① 岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」令和4年度年次レポート【概要版】	372
② 「令和4年県の施策に関する県民意識調査」における重要度、満足度及びニーズ度の順位一覧	380
2 事務事業評価について	
(1) 事務事業評価一覧表の見方	381
(2) 政策推進プラン構成事業	
I 「健康・余暇」分野	384
II 「家族・子育て」分野	396
III 「教育」分野	404
IV 「居住環境・コミュニティ」分野	416
V 「安全」分野	422
VI 「仕事・収入」分野	426
VII 「歴史・文化」分野	448
VIII 「自然環境」分野	450

IX 「社会基盤」分野	454
X 「参画」分野	460
(3) その他主要な事業	464

3 公共事業評価について

I 事前評価

- | | |
|--------------------|-----|
| ・ 公共事業事前評価事業別評価地区数 | 477 |
| ・ 公共事業事前評価実施状況一覧表 | 479 |

II 継続評価

- | | |
|--------------------|-----|
| ・ 公共事業継続評価事業別評価地区数 | 481 |
| ・ 公共事業継続評価実施状況一覧表 | 484 |

III 再評価

- | | |
|-------------------|-----|
| ・ 公共事業再評価事業別評価地区数 | 494 |
| ・ 公共事業再評価実施状況一覧表 | 496 |

IV 事後評価

- | | |
|-------------------|-----|
| ・ 公共事業事後評価実施状況一覧表 | 497 |
|-------------------|-----|

4 大規模事業評価について

I 事前評価

- | | |
|---------------------|-----|
| ・ 大規模事業事前評価事業別評価地区数 | 499 |
| ・ 大規模事業事前評価実施状況一覧表 | 500 |

II 継続評価

- | | |
|----------------------|-----|
| ・ 大規模事業継続評価事業別評価地区数 | 501 |
| ・ 大規模公共事業継続評価実施状況一覧表 | 503 |

III 再評価

- | | |
|---------------------|-----|
| ・ 大規模事業再評価事業別評価地区数 | 505 |
| ・ 大規模公共事業再評価実施状況一覧表 | 507 |

IV 事後評価

- | | |
|--------------------|-----|
| ・ 大規模事業事後評価実施状況一覧表 | 508 |
|--------------------|-----|

第1 政策評価及び事務事業評価の実施状況について

1 政策評価について

(1) 評価の目的

「いわて県民計画（2019～2028）」の実施計画にあたる「第1期アクションプラン 政策推進プラン」（計画期間：令和元年度～4年度）（以下「政策推進プラン」という。）は、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求することができる地域社会を実現するために設定した「10の政策分野」に基づく取組を推進するため、重点的・優先的に取り組むべき政策や、その具体的推進方策を明らかにし、長期ビジョンの実効性を確保するものです。

政策評価は、政策推進プランの各分野における課題等を分析し、その結果を次の政策等に適切に反映させることにより、効果的かつ効率的な行政を推進するとともに、県民の視点に立った成果重視の行政運営を図ることを目的としています。

また、事務事業評価は、政策評価と連動して評価を行っています。

(2) 評価の対象

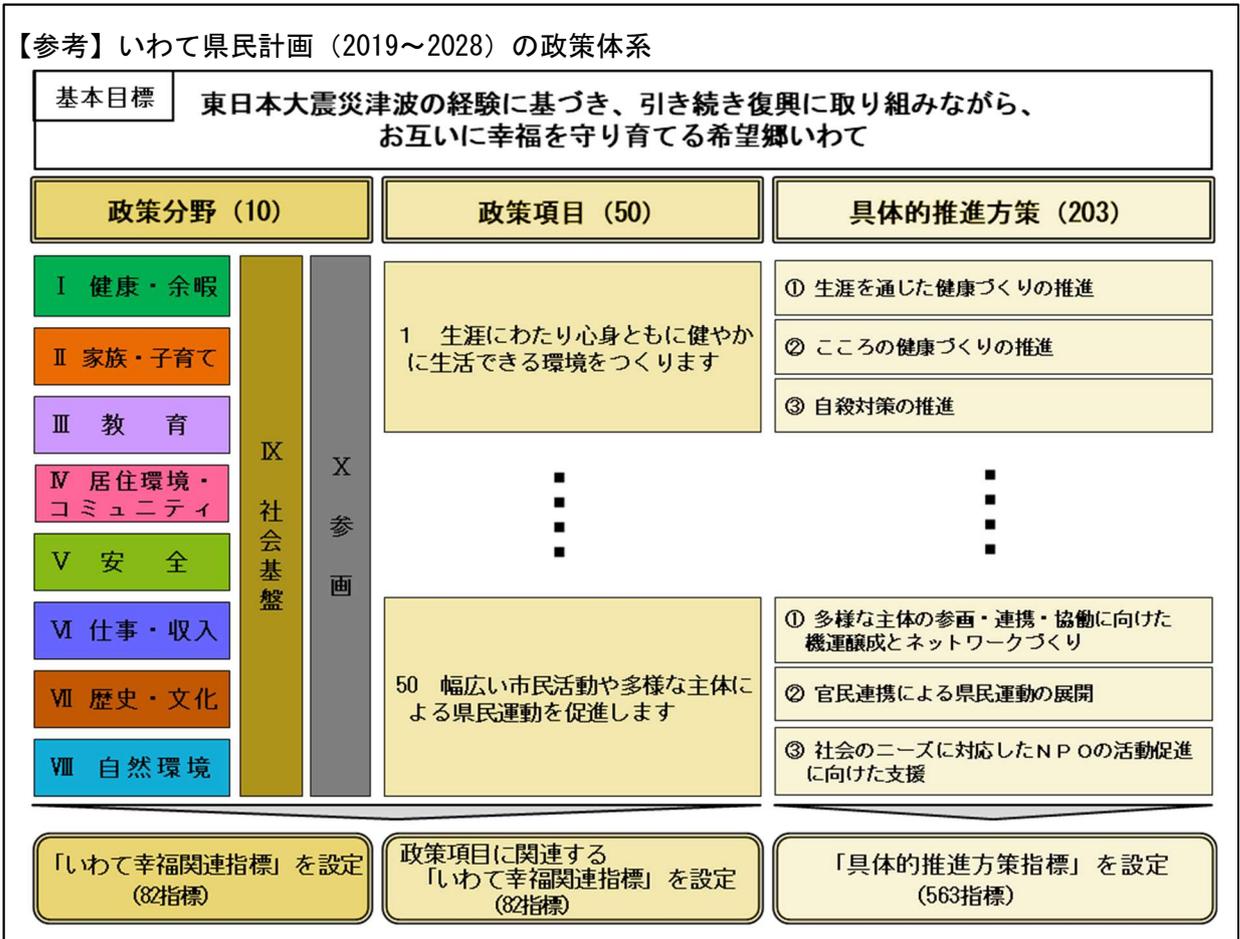
ア 政策評価の対象は、政策推進プランに掲げる10の政策分野、50の政策項目及びこれに属する施策等とし、対象年度は令和3年度及び令和4年度の評価時までとしました。

イ 事務事業評価の対象は、令和4年度に実施している事務事業のうち、いわて県民計画（2019～2028）の推進のために県が行う事業など、政策的なものとした。

(3) 評価の実施時期

ア 実績測定評価結果（「主要施策の成果に関する説明書」）の公表 令和4年9月

イ 政策評価結果等（「政策評価等の実施状況報告書」）の公表 令和4年11月



(4) 評価の方法

① 政策評価

ア 10の政策分野

「いわて幸福関連指標」の達成状況に加え、主観的幸福感に関連する12の分野別実感の状況、政策分野を取り巻く状況等を踏まえて総合的に評価し、「課題と今後の方向」を取りまとめました。

イ 政策分野を構成する50の政策項目

政策項目に関連する「いわて幸福関連指標」に加え、具体的推進方策における県の取組状況、政策項目を取り巻く状況、他の主体の取組等を踏まえて総合的に評価し、「課題と今後の方向」を取りまとめました。

ウ 県の取組

「具体的推進方策指標」の達成状況に加え、各推進方策を構成する事務事業の取組状況等を踏まえて評価しています。

② 事務事業評価

いわて県民計画（2019～2028）の推進のために県が行う政策推進プラン構成事業は、「活動内容指標」と「成果指標」の状況の評価した上で、事業の必要性や有効性等を考慮し「今後の方向」を取りまとめました。

それ以外の事業については、事業の進捗状況及び必要性に係る定性的な分析を行い、事業の今後の方向を決定しました。

(5) 評価の経過

ア 評価手法等については、第三者の専門家等で組織する岩手県政策評価専門委員会の意見を聞きました。（令和4年10月28日）

イ 評価の取りまとめに当たっては、知事、副知事及び部局長で構成する政策会議等において協議しました。（令和4年11月7日）

2 県民の幸福度の現状

県では、令和4年1月から2月に実施した「県の施策に関する県民意識調査」において、県民の幸福度（主観的幸福感）について調査を行い、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢に応じて、5点から1点を配点して「主観的幸福感の平均値」を算出した結果、3.51点（基準年である平成31年調査より0.08点上昇）となり、主観的幸福感は上昇しています。

なお、「幸福と感じる（「幸福だと感じている」+「やや幸福だと感じている」）」と回答した人の割合は、県全体で56.6%（基準年比4.3ポイント上昇）、「幸福と感じない（「あまり幸福だと感じていない」+「幸福だと感じていない」）」と回答した人の割合は、県全体で17.8%（基準年比1.5ポイント低下）しています。

図1 主観的幸福感の平均値（県計）の推移

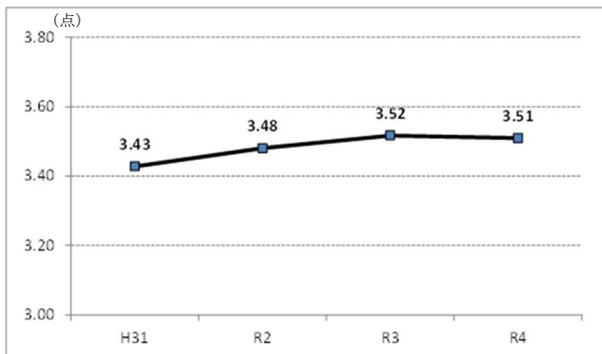
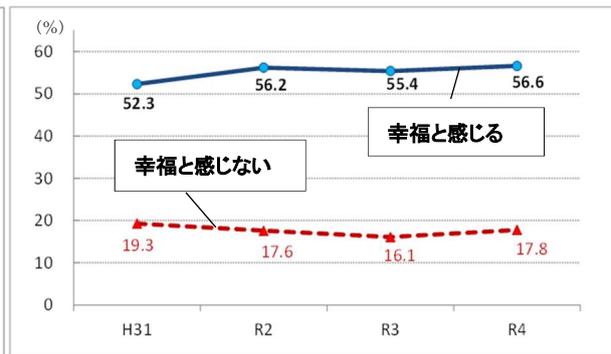


図2 主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕



また、主観的幸福感に関連する12の分野に係る実感についても調査を実施しており、この分野別実感の平均値を基準年調査と比較した結果、分野別実感は以下のとおり変動しています。

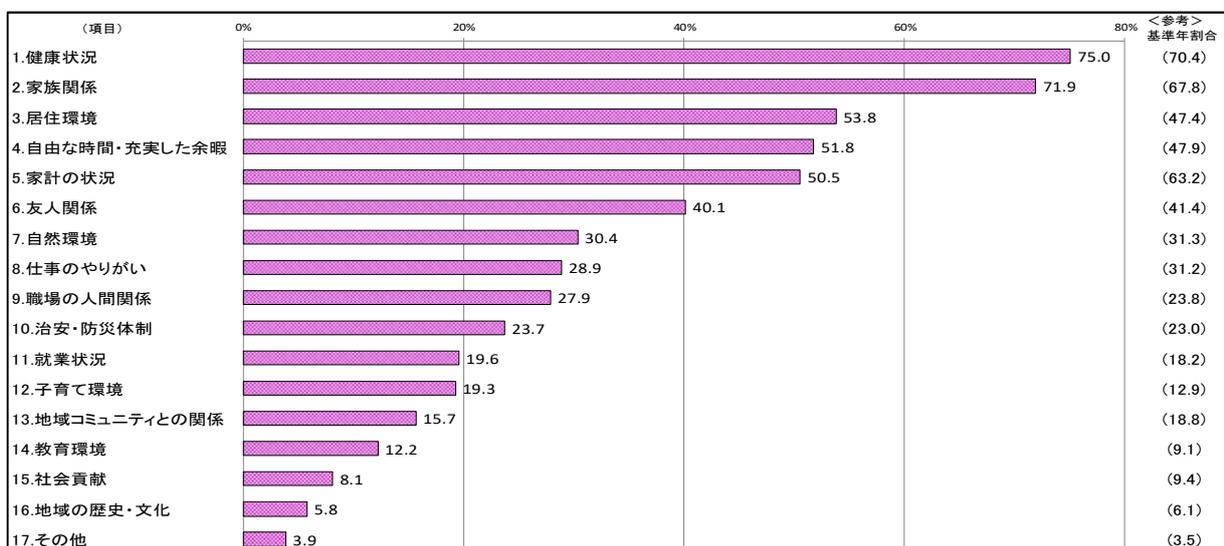
上昇（4分野）：心身の健康、家族関係、子育て、子どもの教育

横ばい（3分野）：住まいの快適さ、歴史・文化への誇り、自然のゆたかさ

低下（5分野）：余暇の充実、地域社会とのつながり、地域の安全、仕事のやりがい、必要な収入や所得

併せて、回答者が幸福を判断する際に重視する項目について調査した結果、特に重視された項目は「健康状況」及び「家族関係」でした。

図3 幸福を判断する際に重視する事項の回答状況



【追加分析1】県民の幸福感の推移に係る分析

県民の幸福感については、県民意識調査において、平成28年から設問を設けて実感を把握してきており、政策推進プランの期間前（H28～H31）、期間中（H31～R4）に分けて、その推移を分析しました。

なお、実感変動の検証に当たっては、t検定を用いた多重比較の手法を用いました。

①主観的幸福感

政策推進プランの期間	実感変動	幸福実感の回答割合（％）	
		感じる	感じない
期間前	横ばい	51.3～55.4	18.3～19.3
期間中	上昇	52.3～56.6	16.1～19.3

- 幸福かどうか判断する際に重視している項目は、一貫して1位が「健康状況」、2位が「家族関係」

②分野別実感

分野別実感	実感変動		期間中の実感変動の要因
	期間前	期間中	
①心身の健康	横ばい	上昇	ワークライフバランスが良くなっていることなど
②余暇の充実	上昇	低下	知人・友人との交流や趣味・娯楽の機会・場所の減少など
③家族関係	横ばい	横ばい	—
④子育て	上昇	上昇	子どもを預けられる人・場所があるなど
⑤子どもの教育	横ばい	上昇	人間性、社会性をはぐくむための教育内容の充実など
⑥住まいの快適さ	上昇	横ばい	—
⑦地域社会とのつながり	上昇	低下	隣近所との面識・交流や自治会・町内会活動への参加の減少など
⑧地域の安全	上昇	低下	自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていることなど
⑨仕事のやりがい	横ばい	低下	現在の収入や給料の額が十分とは言えないなど
⑩必要な収入や所得	上昇低下	上昇低下	自分の収入・所得額が十分とは言えないなど（R2-R3では、特別給付金等の影響もあり上昇）
⑪歴史・文化への誇り	横ばい	横ばい	—
⑫自然のゆたかさ	横ばい	横ばい	—

【追加分析2】新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析

令和4年県民意識調査において、分野別実感とそれに係る回答者の新型コロナウイルス感染症の影響実感について調査した結果から、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性について分析を行った結果、分野によっては一定の相互関係（新型コロナウイルス感染症の影響について良い影響を感じる人ほど分野別実感が高く、良くない影響を感じる人ほど分野別実感が低いなど）が見られており、「新型コロナウイルス感染症の影響」が「分野別実感」に一定程度影響があったものと推測できます。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（R2年調査）に比べて、分野別実感が低下した分野には、そうした相互関係が見られておらず、「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の間に明確な関係性は確認できませんでした。

3 政策評価結果

- 政策推進プランの10の政策分野、50の政策項目、203の具体的推進方策を対象として、総合的に評価を実施したところ、政策分野の総合評価では、「B」以上の割合が「C」以下の割合を上回る結果、政策項目の総合評価、県の取組状況の評価、いずれも「概ね順調」以上の割合が「やや遅れ」以下の割合を上回る結果となりました。
- 政策評価等により明らかになった課題等の解決に向け、今後の予算編成過程を通じて来年度以降の政策等への反映に努めていきます。

(1) 政策分野の総合評価

10の政策分野中、6分野を「B」、2分野を「C」、2分野を「D」と評価しました。

【今回の評価結果】



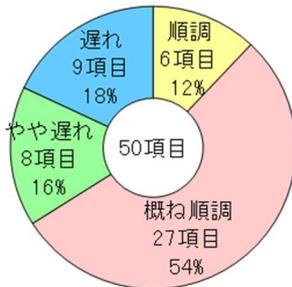
(分野)

政策分野	評価区分	政策分野	評価区分
I 健康・余暇	B	VI 仕事・収入	D
II 家族・子育て	B	VII 歴史・文化	C
III 教育	B	VIII 自然環境	B
IV 居住環境・コミュニティ	D	IX 社会基盤	B
V 安全	C	X 参画	B

(2) 政策項目の総合評価

50の政策項目中、33項目(66%)を「順調・概ね順調」と評価しました。その一方で、「IV 居住環境・コミュニティ」、「VII 歴史・文化」で半数を超える項目を「やや遅れ・遅れ」と評価しました。

【今回の評価結果】



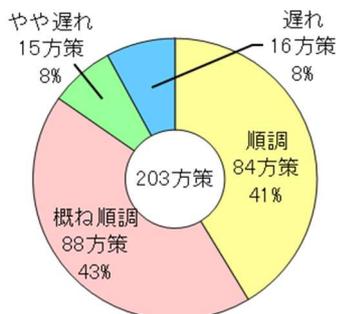
(項目)

政策分野	評価区分				計	順調・概ね順調 (%)	政策分野	評価区分				計	順調・概ね順調 (%)
	順調	概ね順調	やや遅れ	遅れ				順調	概ね順調	やや遅れ	遅れ		
I 健康・余暇	0	4	1	0	5	80	VI 仕事・収入	0	7	0	2	9	78
II 家族・子育て	2	3	0	0	5	100	VII 歴史・文化	0	0	2	0	2	0
III 教育	1	4	2	3	10	50	VIII 自然環境	0	2	1	0	3	67
IV 居住環境・コミュニティ	1	1	0	4	6	33	IX 社会基盤	1	2	1	0	4	75
V 安全	1	2	1	0	4	75	X 参画	0	2	0	0	2	100
合計								6	27	8	9	50	66

(3) 県の取組状況の評価(「具体的推進方策」からみた評価)

県の具体的な取組である「具体的推進方策」の状況からみた評価では、203の推進方策中、172方策(約85%)を「順調・概ね順調」としました。その一方で、「III 教育」で約36%を「やや遅れ・遅れ」と評価しました。

【今回の評価結果】



(方策)

政策分野	評価区分				計	順調・概ね順調 (%)	政策分野	評価区分				計	順調・概ね順調 (%)
	順調	概ね順調	やや遅れ	遅れ				順調	概ね順調	やや遅れ	遅れ		
I 健康・余暇	8	11	2	2	23	83	VI 仕事・収入	15	26	1	1	43	95
II 家族・子育て	3	10	4	0	17	76	VII 歴史・文化	6	2	0	0	8	100
III 教育	18	11	4	12	45	64	VIII 自然環境	10	3	1	0	14	93
IV 居住環境・コミュニティ	6	7	1	1	15	87	IX 社会基盤	11	4	1	0	16	94
V 安全	5	9	0	0	14	100	X 参画	2	5	1	0	8	88
合計								84	88	15	16	203	85

4 事務事業評価結果

① 評価結果（政策推進プラン構成事業 707 事業）

プランを構成する 707 事業について、活動内容指標・成果指標の状況から評価した結果、【ともに「a」】が 342 事業（48.4%）、【「a」・「b」】又は【ともに「b」】が 102 事業（14.4%）、【「c」を含む】が 179 事業（25.3%）となりました。

評価区分	ともに「a」	「a」・「b」、 ともに「b」	「c」を 含む	その他	計	ともに「b」以 上
プラン構成事業(A)	342 (48.4%)	102 (14.4%)	179 (25.3%)	84 (11.9%)	707 (100.0%)	62.8%
I 健康・余暇	53	19	47	7	126	57.1%
II 家族・子育て	17	7	16	21	61	39.3%
III 教育	58	10	18	19	105	64.8%
IV 居住環境・コミュニティ	17	12	11	10	50	58.0%
V 安全	21	4	12	2	39	64.1%
VI 仕事・収入	127	37	52	6	222	73.9%
VII 歴史・文化	6	1	2	8	17	41.2%
VIII 自然環境	21	8	9	1	39	74.4%
IX 社会基盤	17	1	8	10	36	50.0%
X 参画	5	3	4	0	12	66.7%

※ 評価区分:「a」:100%以上、「b」:80%以上、「c」:80%未満。

② 今後の方向（全 888 事業）

政策推進プラン構成事業以外の政策的な事業を含む 888 事業について、「拡充」が 12 事業（1.4%）、「継続（見直しあり）※」が 168 事業（19.0%）、「継続」が 636 事業（71.6%）、「縮減」が 7 事業（0.8%）、「廃止・休止※」が 15 事業（1.7%）、「終了」が 50 事業（5.6%）となりました。

今後の方向	拡充	継続（見直し あり）	継続	縮減	廃止 休止	終了	計
プラン構成事業(A)	11 (1.6%)	156 (22.1%)	492 (69.6%)	6 (0.8%)	14 (2.0%)	28 (4.0%)	707 (100.0%)
I 健康・余暇	1	59	62	0	4	0	126
II 家族・子育て	1	14	44	1	0	1	61
III 教育	1	16	81	1	1	5	105
IV 居住環境・コミュニティ	0	14	31	1	1	3	50
V 安全	0	7	30	1	0	1	39
VI 仕事・収入	2	31	168	2	4	15	222
VII 歴史・文化	0	1	13	0	3	0	17
VIII 自然環境	6	4	27	0	1	1	39
IX 社会基盤	0	6	28	0	0	2	36
X 参画	0	4	8	0	0	0	12
プラン構成事業以外の政策的な事業(B)	1	12	144	1	1	22	181
合計(A+B)	12 (1.4%)	168 (19.0%)	636 (71.6%)	7 (0.8%)	15 (1.7%)	50 (5.6%)	888 (100.0%)

※ 「継続（見直しあり）」: 事業手法などを見直したうえで継続する事業

※ 「廃止・休止」: 廃止・休止する事業のほか、他の事業に統合するものを含む。

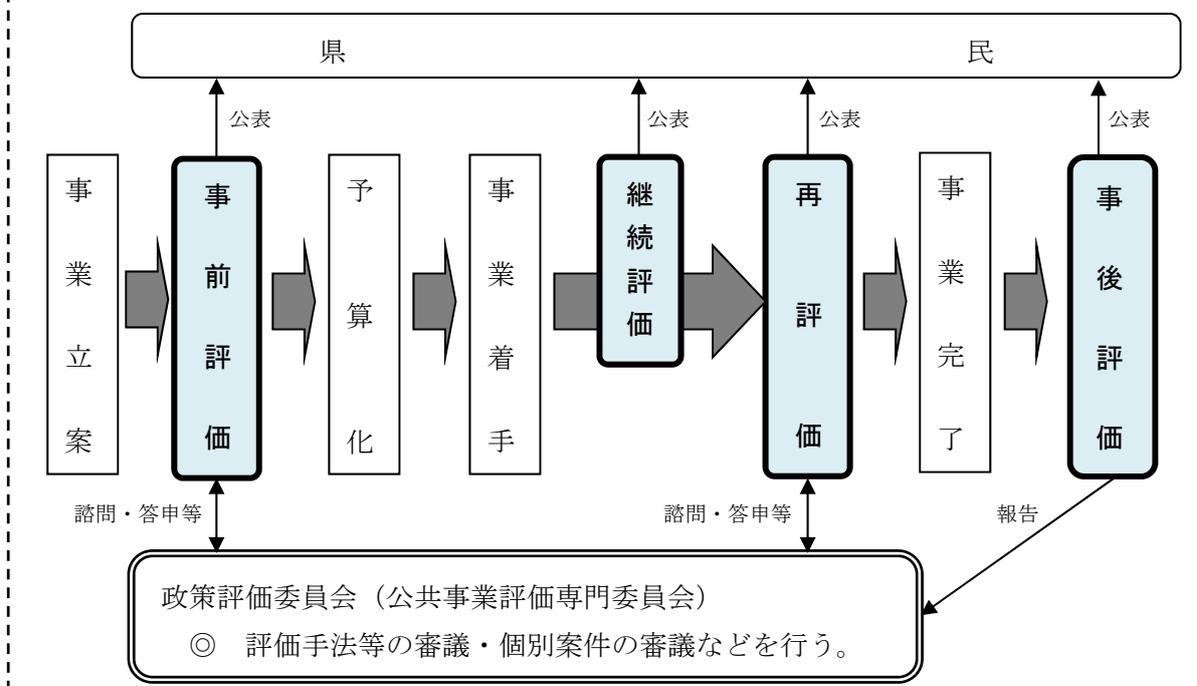
第2 公共事業評価及び大規模事業評価の実施状況について

1 公共事業評価結果

(1) 評価の目的

公共事業評価は、厳しい財政環境の中にあつて、社会資本の整備のため重要な役割を果たしている公共事業について、一層の効率化、重点化を図るとともに、その実施過程の透明性の向上を図ることを目的としています。

【公共事業評価の流れ】



令和4年10月までに評価を実施した地区を掲載しており、これ以降に評価を実施した地区については、評価結果の政策等への反映状況と併せて報告・公表する予定です。

(2) 評価の対象

ア 事前評価

農林水産部及び県土整備部が所管する公共事業（災害復旧事業及び維持管理に係る事業並びに総事業費50億円以上の大規模公共事業を除く。以下同じ。）について、新たに事業着手を計画しているものを対象として評価を行いました。

所管部局	事前評価対象
農林水産部	29 地区
県土整備部	10 地区
合計	39 地区

イ 継続評価

令和4年度に実施している公共事業のうち、令和5年度に継続を予定している事業を対象として評価を行いました。（ただし、再評価の対象となった事業を除く。）

所管部局	継続評価対象
農林水産部	140 地区
県土整備部	111 地区
合計	251 地区

ウ 再評価

令和4年度に実施している公共事業のうち、事業の実施を決定した後、一定の期間を経過した事業等を対象として評価を行いました。

所管部局	再評価対象
農林水産部	7地区
県土整備部	2地区
合計	9地区

エ 事後評価

事業完了後、一定期間を経過した事業を対象として評価を行いました。

所管部局	事後評価対象
農林水産部	2地区
県土整備部	1地区
合計	3地区

(3) 評価の実施時期

ア 事前評価

- ・事業を所管する部局の評価 令和4年10月

イ 継続評価

- ・事業を所管する部局の評価 令和4年10月

ウ 再評価

- ・事業を所管する部局の評価 令和4年5月
- ・政策評価委員会への諮問 令和4年6月
- ・公共事業評価専門委員会における審議 令和4年6月～9月
- ・政策評価委員会からの答申 令和4年9月

エ 事後評価

- ・事業を所管する部局の評価 令和4年8月

(4) 評価の方法

ア 事前評価

「自然環境等の状況及び環境配慮事項」及び「事業に関する指標からみた評価※」の2つの項目について評価を行い、これらの項目評価の結果を踏まえ総合評価を行いました。

※ 事業ごとの評価指標に基づき、「必要性」、「重要性」、「緊急性」、「効率性（費用便益比(B/C)）」、「熟度」の5項目について点数化(100点満点)し、評価するもの。

イ 継続評価

事前評価に同じ。

ウ 再評価

「事業の進捗状況等」及び「社会経済情勢等の変化」の2つの項目について評価を行い、これらの項目評価の結果を踏まえ総合評価を行いました。

エ 事後評価

「事業の効果等」、「利用者の意見等」、「社会経済情勢等の変化」の3つの項目について評価を行い、今後の課題等（当該地区の課題、今後の同種事業のあり方及び事業評価手法の見直しの必要性）を取りまとめました。

(5) 評価の結果

ア 事前評価

所管部局	評価実施 地区数	総合評価			
		A A	A	B	C
農林水産部	29	4	25	0	0
県土整備部	10	1	7	2	0
合 計	39 (100.0%)	5 (12.8%)	32 (82.1%)	2 (5.1%)	0 (0.0%)

イ 継続評価

所管部局	評価実施 地区数	総合評価			
		A A	A	B	C
農林水産部	140	50	90	0	0
県土整備部	111	21	65	25	0
合 計	251 (100.0%)	71 (28.3%)	155 (61.7%)	25 (10.0%)	0 (0.0%)

ウ 再評価

所管部局	評価実施 地区数	総合評価					
		事業 継続	要検討				中止
			事業 継続	見直し 継続	休止	中止	
農林水産部	7	6	1	0	0	0	0
県土整備部	2	2	0	0	0	0	0
合 計	9 (100.0%)	8 (88.9%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

エ 事後評価（実施事業）

所管部局	事業名	路線名・地区名	市町村名
農林水産部	かんがい排水事業	鹿妻新堰	盛岡市
農林水産部	林道整備事業	八戸川内線	岩泉町
県土整備部	通常砂防事業	一級河川馬淵川水系馬淵の沢	葛巻町

- 公共事業 302 地区を対象に評価を実施しました。
- 事前評価を行った 39 地区の評価結果は、「AA」が 5 地区(12.8%)、「A」が 32 地区(82.1%)、「B」が 2 地区(5.1%)となりました。
- 継続評価を行った 251 地区の評価結果は、「AA」が 71 地区(28.3%)、「A」が 155 地区(61.7%)、「B」が 25 地区(10.0%)となりました。
- 再評価実施を行った 9 地区の評価結果は、「事業継続」が 8 地区 (88.9%)、「要検討 (事業継続)」が 1 地区 (11.1%) となりました。
- 事後評価は、3 地区について実施しました。
- 今後は、評価結果を踏まえて、事業の効率化及び重点化を進めるとともに、事業効果の早期発現を目指して取り組んでいきます。

【評価結果】

種類	事前評価				継続評価				再評価						事後評価	合計
	AA	A	B	C	AA	A	B	C	事業継続	要検討				中止		
										事業継続	見直し継続	休止	中止			
地区数	5	32	2	0	71	155	25	0	8	1	0	0	0	0	3	302

[参考]

【総合評価の評価区分の見方】

○ 事前評価及び継続評価

「自然環境等の状況及び環境配慮事項」(評価: a ~ c)、「事業に関する指標からみた評価」(評価: a ~ c)の項目評価の組み合わせにより、次のとおり総合評価(AA~C)を実施。

総合評価	項目評価の組み合わせ
AA	いずれも a 評価となっているもの
A	a 評価と b 評価で構成されているもの
B	いずれも b 評価となっているもの
C	いずれかが c 評価となっているもの

○ 再評価

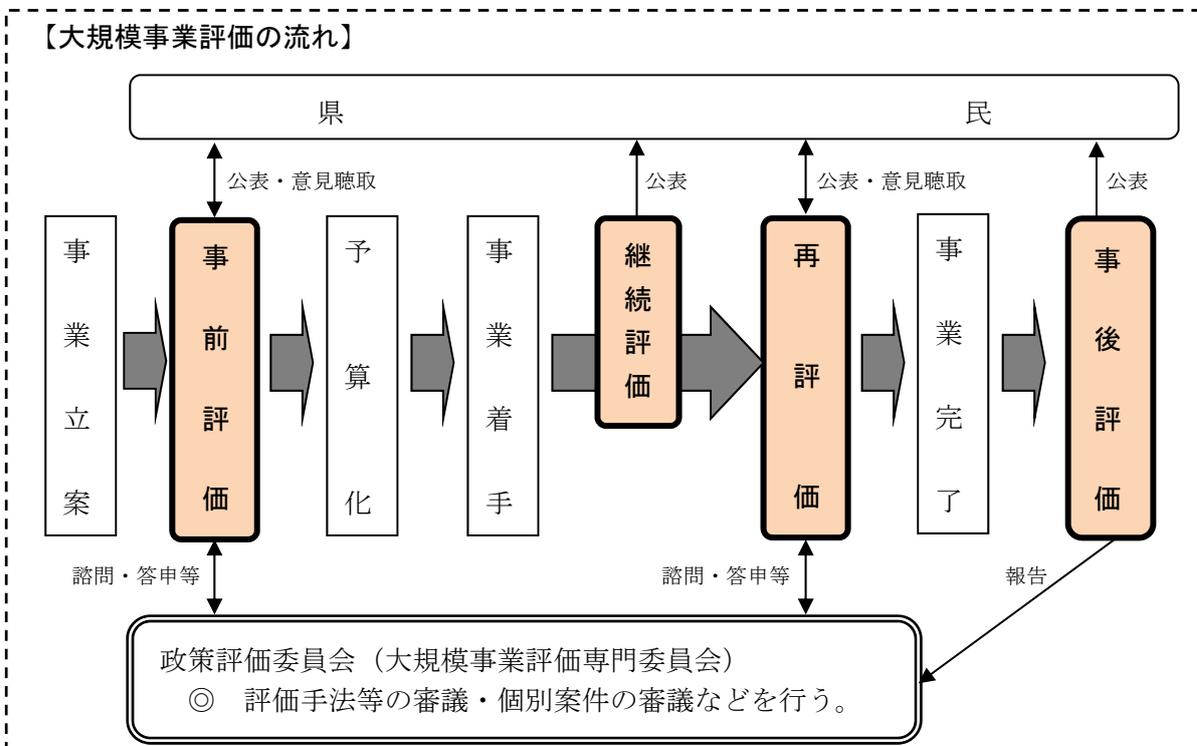
「事業の進捗状況等」(評価: AA、A、BB、B、C)、「社会経済情勢等の変化」(評価: A、A、B、C)の項目評価の組み合わせにより、次のとおり総合評価を実施。

総合評価	項目評価の組み合わせ
事業継続	2つの項目の評価がそれぞれAA又はA若しくはBBである場合
要検討	事業継続、中止の評価以外の場合 (「事業継続」「見直し継続」「休止」「中止」の検討方針案を選択)
中止	事業の進捗状況等の評価にかかわらず、社会経済情勢等の変化がC評価である場合

2 大規模事業評価結果

(1) 評価の目的

大規模事業評価は、厳しい財政環境の中にあつて、より一層詳細で慎重な評価を行うことで、県民への説明責任を果たすとともに、事業の効果的・効率的な推進に資することを目的としています。



(2) 評価の対象

ア 事前評価

大規模施設整備事業（施設整備事業のうち総事業費が25億円以上の事業又はこれに準ずる事業で知事が必要と認める事業をいう。以下同じ。）であつて、基本となる構想を作成している事業を対象として評価を行いました。

【大規模施設整備事業（基本構想後）】

所管部局	事前評価対象
警察本部	1 地区
合計	1 地区

イ 継続評価

令和4年度に実施している大規模公共事業（公共事業のうち総事業費が50億円以上のものをいう。以下同じ。）のうち、令和5年度に継続を予定している事業を対象として評価を行いました。（ただし、再評価の対象となった事業を除く。）

所管部局	継続評価対象
農林水産部	3 地区
県土整備部	15 地区
合計	18 地区

ウ 再評価

令和4年度に実施している大規模公共事業のうち、事業の実施を決定した後、一定の期間を経過した事業等を対象として評価を行いました。

所管部局	再評価対象
農林水産部	0 地区
県土整備部	2 地区
合 計	2 地区

エ 事後評価

事業完了後、一定期間を経過した大規模公共事業を対象として評価を行いました。

所管部局	事後評価対象
農林水産部	0 地区
県土整備部	1 地区
合 計	1 地区

(3) 評価の実施時期

ア 事前評価

[大規模施設整備事業（基本構想後）]

- ・事業を所管する部局の評価 令和4年5月
- ・政策評価委員会への諮問 令和4年6月
- ・大規模事業評価専門委員会における審議 令和4年6月～8月
- ・政策評価委員会からの答申 令和4年9月

イ 継続評価

- ・事業を所管する部局の評価 令和4年10月

ウ 再評価

- ・事業を所管する部局の評価 令和4年5月
- ・政策評価委員会への諮問 令和4年6月
- ・大規模事業評価専門委員会における審議 令和4年6月～8月
- ・政策評価委員会からの答申 令和4年9月

エ 事後評価

- ・事業を所管する部局の評価 令和4年8月

(4) 評価の方法

ア 事前評価

[大規模施設整備事業（基本構想後）]

「事業の必要性」、「施設計画の妥当性」及び「環境保全と景観への配慮」の3つの項目について評価を行い、これらの項目評価の結果を踏まえ総合評価を行いました。

イ 継続評価

「自然環境等の状況及び環境配慮事項」及び「事業に関する指標からみた評価※」の2つの項目について評価を行い、これらの項目評価の結果を踏まえ総合評価を行いました。

※ 事業ごとの評価指標に基づき、「必要性」、「重要性」、「緊急性」、「効率性（費用便益比(B/C)）」、「熟度」の5項目について点数化(100点満点)し、評価するもの。

ウ 再評価

「事業の進捗状況等」及び「社会経済情勢等の変化」の2つの項目について評価を行い、これらの項目評価の結果を踏まえ総合評価を行いました。

エ 事後評価

「事業の効果等」、「利用者の意見等」、「社会経済情勢等の変化」の3つの項目について評価を行い、今後の課題等（当該地区の課題、今後の同種事業のあり方及び事業評価手法の見直しの必要性）を取りまとめました。

(5) 評価の結果

ア 事前評価

[大規模施設整備事業（基本構想後）]

所管部局	評価実施 地区数	総合評価		
		事業実施	要検討	その他
警察本部	1	1	0	0
合 計	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

イ 継続評価

所管部局	評価実施 地区数	総合評価			
		A A	A	B	C
農林水産部	3	3	0	0	0
県土整備部	15	3	12	0	0
合 計	18 (100.0%)	6 (33.3%)	12 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

ウ 再評価

所管部局	評価実施 地区数	総合評価					
		事業 継続	要検討				中止
			事業 継続	見直し 継続	休止	中止	
農林水産部	0	0	0	0	0	0	0
県土整備部	2	2	0	0	0	0	0
合 計	2 (100.0%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

エ 事後評価（実施事業）

所管部局	事業名	路線名・地区名	市町村名
県土整備部	地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型)	国道 106 号 宮古西道路	宮古市

- 大規模事業 22 地区を対象に評価を実施しました。
- 事前評価を行った 1 地区の評価結果は、「事業実施」となりました。
- 継続評価を行った 18 地区の評価結果は、「AA」が 6 地区 (33.3%)、「A」が 12 地区 (66.7%)、となりました。
- 再評価を行った 2 地区の評価結果は、全て「事業継続」となりました。
- 事後評価は、大規模公共事業 1 地区について実施しました。
- 今後は、評価結果を踏まえて、事業の効率化及び重点化を進めるとともに、事業効果の早期発現を目指して取り組んでいきます。

【評価結果】

種類	事前評価			継続評価				再評価					事後評価	合計	
	事業実施	要検討	その他	AA	A	B	C	事業継続	要検討						中止
									事業継続	見直し継続	休止	中止			
地区数	1	0	0	6	12	0	0	2	0	0	0	0	0	1	22

[参考]

【総合評価の評価区分の見方】

○ 事前評価

[大規模公共事業（基本構想作成後）]

「社会経済情勢等の状況」、「自然環境等の状況」及び「事業計画の妥当性」の項目評価の結果を踏まえ、次のとおり総合評価を実施。

総合評価	説明
事業実施	基本的な構想のとおり事業を実施していくもの
要検討	基本的な構想あるいはその後の検討において、課題が把握されており、今後検討を加える必要があるもの
その他	基本的な構想の内容を当面見合わせるなど、「事業実施」「要検討」に当てはまらないもの

[大規模施設整備事業（基本構想作成後）]

「事業の必要性」、「施設計画の妥当性」及び「環境保全と景観への配慮」の項目評価の結果を踏まえ、次のとおり総合評価を実施。

総合評価	説明
事業実施	基本的な構想のとおり事業を実施していくもの
要検討	基本的な構想あるいはその後の検討において、課題が把握されており、今後検討を加える必要があるもの
その他	基本的な構想の内容を当面見合わせるなど、「事業実施」「要検討」に当てはまらないもの

[大規模公共事業（基本設計後）]

「社会経済情勢等の状況」、「自然環境等の状況」及び「事業計画の妥当性」の項目評価の結果を踏まえ、次のとおり総合評価を実施。

総合評価	説明
事業実施	基本的な設計のとおり事業を実施していくもの
要検討	基本的な設計において、課題が把握されており、今後検討を加える必要があるもの
その他	基本的な設計の内容を当面見合わせるなど、「事業実施」「要検討」に当てはまらないもの

[大規模施設整備事業（基本設計後）]

「事業の必要性」、「事業の有効性」、「事業の効率性」、「施設計画の妥当性」、「環境保全と景観への配慮」及び「その他」の項目評価の結果を踏まえ、次のとおり総合評価を実施。

総合評価	説明
事業実施	基本的な設計のとおり事業を実施していくもの
要検討	基本的な設計において、課題が把握されており、今後検討を加える必要があるもの
その他	基本的な設計の内容を当面見合わせるなど、「事業実施」「要検討」に当てはまらないもの

○ 継続評価

「自然環境等の状況及び環境配慮事項」(評価: a ~ c)、「事業に関する指標からみた評価」(評価: a ~ c)の項目評価の組み合わせにより、次のとおり総合評価(AA~C)を実施。

総合評価	項目評価の組み合わせ
AA	いずれも a 評価となっているもの
A	a 評価と b 評価で構成されているもの
B	いずれも b 評価となっているもの
C	いずれかが c 評価となっているもの

○ 再評価

「事業の進捗状況等」(評価: AA、A、BB、B、C)、「社会経済情勢等の変化」(評価: A、A、B、C)の項目評価の組み合わせにより、次のとおり総合評価を実施。

総合評価	項目評価の組み合わせ
事業継続	2つの項目の評価がそれぞれAA又はA若しくはBBである場合
要検討	事業継続、中止の評価以外の場合 (「事業継続」「見直し継続」「休止」「中止」の検討方針案を選択)
中止	事業の進捗状況等の評価にかかわらず、社会経済情勢等の変化がC評価である場合